

国際協働学習 iEARN レポート

ISSN 2434-0049

防災世界子ども会議

Natural Disaster Youth Summit NDYS

防災世界子ども会議の 15 年



2020.6.1

防災世界子ども会議実行委員会



防災世界子ども会議 NDYS の15年 自然災害に強い、安全安心な社会を目指して ～世界の災害の教訓をつなげよう～

防災世界子ども会議実行委員会 実行委員長 納谷 淑恵
プロジェクト創設者 岡本 和子

防災世界子ども会議は、ICT を活用した国際協働学習を展開する学びのイノベーション事業として、阪神・淡路大震災10年目にあたる2005年にスタートし、今年で15年を迎える。おりしも、今年2020年にCOVID-19によるパンデミックにより世界中の人々の生命及び生活が脅かされ、これまで以上に「安心・安全な暮らし」をいかに守るかが最重要課題となっている。本レポートは、防災世界子ども会議の15年の歩みを振り返り、成果をまとめるとともに、これからの進むべき道を探る指針としたい。

防災教育 国際協働学習 ICTとネットワーク SDGs 国際枠組み

1 はじめに

兵庫県では、大震災25年を機に、間近に迫る南海トラフ地震を前に、震災を風化させない「忘れない、伝える、活かす、備える」の取り組みを通して、災害文化を定着させ、将来にわたり自然災害に強い安全安心を支える基盤づくりが何より求められている。

また新型コロナウイルス感染症(COVID-19)や大規模災害などへのリスク管理に強い地域づくりも求められている。

兵庫発の防災世界子ども会議 NDYS プロジェクトは、阪神・淡路大震災10年を機に「大震災の教訓を世界の子どもたちに伝えよう、命の尊さを考えよう！」と、ひょうごの子どもたちと世界の学校とのオンライン交流から始まった。その目的は「コミュニケーションが命を救う！」をスローガンに、災害が引き起こす惨状に目をむけ、子どもたちが、命を守る重要性に気づき、命を守る判断、行動、備えができるようにすることである。第1回会議NDYS2005で、グローバルな防災教育ネットワークの基礎を築き、その後も、様々な方々のご協力を得て国際協働学習を15年も継続して取り組むことができた。

さらに次なる時代への安全安心の基盤づくりを確実なものにするために、NDYS2020より、テーマを「自然災害に強い、安全安心な社会を目指して～世界の災害の教訓をつなげよう～」と設定し、国連持続可能な開発目標SDGsに貢献するプロジェクトベースの「国際協働学習」を

推進し、2030年のSDGs実現に向けてのネットワークづくりを進める。同時に、国内では豊かで安全安心な社会に向けて、テクノロジーを活用して課題解決する「Society5.0」を支える人材育成の仕組みづくりを進めていく。

2 目的と方法

2-1 目的

防災世界子ども会議は、世界と学ぶ！「国際協働学習」を通じた防災教育の促進を目的とするプロジェクトである。ICTとグローバルネットワークの活用で、世界の小中高校の子どもたちが、さまざまな国・地域の防災の知恵や災害から学んだ教訓に関する「情報」を共有し、学び合い、自然災害の「防災・減災・復興」という地球規模の課題解決に取り組み、その成果を世界へ、未来へ発信することを目指す。

そのミッションは、防災世界子ども会議プロジェクトの実践でグローバルシチズンシップを養い、SDGs達成を担う次世代の市民の育成と地球規模の課題解決を担うなどグローバル人材の育成を目指している。

2-2 方法

国を超えた協働学習を可能にするアイアンの仕組みをつかって、「国際協働学習」に取り組む。オンラインによる国際協働学習とその総仕上げとして、face-to-faceの会議(成果発表会)をもつ。

世界から参加の子どもたちは、SDGsの17の目標のうち、目標11と目標13の実現に向けて、NDYS国際協働学習プログラムに取り組む。



メインプログラム：
グローバル災害安全マップ作り
サブプログラム：
小さな防災大使

オンラインによる電子メール、テレビ会議

Facebook、Web発信他などの技術やシステムを活用し、各地域でのローカルな活動を海外のメンバーの活動とを繋ぐことにより、ローカルな活動とグローバルな活動を融合させた国際協働によるプロジェクト学習に取り組む。



写真1 テレビ会議によるグローバルミーティング

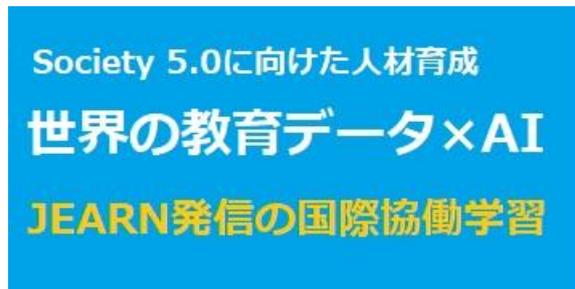
成果発表会では、災害安全マップ展とプロジェクトのプレゼンテーション、その年のNDYS宣言文を作成し、世界に向けて防災学習の意義を宣言する。



写真2 成果発表会：SGH スクール神戸市立葺合高校

Web会議での英語でのプレゼンテーション
対象：小学校・中学校・高等学校
期間：例年9月から次の年の8月

NDYS国際協働学習のプラットフォーム：
<https://ndys.jearn.jp>



子どもたちの活動成果はEレポートとしてまとめ、NDYSのウェブ上に公開している。

3 活動内容

世界から参加の学校が、共通のテーマや全体スケジュールにそって、持続可能な開発の観点から、子どもたちが住んでいる地域社会が抱える課題を探り、主体的に防災について考え、災害安全マップ作りやキッズ防災バッグ作りなどに取り組む。フィールドワークやディスカッションを重ねて、課題に対する自分たちの考えや提案をまとめる。

成果発表会ではプロジェクトに参加の小中高生が一同に集い成果を発表する。未来を担う子どもたちが、地球の未来、防災についての意見を交わし、交流を深め、未来に向けた「宣言文」を採択する。

3-1 参加の国・地域 66か国・地域の学校がこれまでに参加している。

3-2 共通のテーマ

NDYS2005 大震災の教訓を未来へ！命の大切さを考えよう

NDYS2006 グローバル災害安全マップをつくろう！

NDYS2007 減災社会づくりに私たちができること

NDYS2008-2009 地球温暖化と防災

NDYS2010-2011 防災と気候変動

NDYS2012-2015 気候変動と防災

NDYS2016-2019 気候変動と私たちの住むまちの「防災・減災・復興」

NDYS2020 安全安心な社会を目指して

3-3 宣言文 NDYSのウェブ上に公開している。

2020年8月に、琴リピックとの共催により新潟県新潟市にて「防災世界子ども会議2020 in 新潟」を開催する予定であったが、COVID-19による感染拡大防止のため中止となった。

4 成果と課題

15年の活動を通して、若い世代の防災教育の専門家やリーダーが育っている。

プロジェクトに参加の小中高校生は、世界にはさまざまな災害が発生し、多くの大切な命が失われている現実を見つめ、危機に立ち向かうには、グローバルな視点で防災を考え、情報共有し、世界の教訓を活かすことが重要であると多くが会議後のインタビューで答えている。

国際協働学習の最終章である NDYS 宣言作成では、プロジェクト参加校からメッセージを集めたアイデアを一つにまとめ、連帯で発表する。他国の生徒と英語で意見交換することにより、

共感や思いやる気持ちから、勇気と力を得て、参加の生徒たちの国を超えたつながりにより力強いグローバルシティズンシップが育っている。また全体で達成する目標が見える化されるので、自分たちも何かしなければという思いになる。

課題としては、気候変動対策と並行して、これまでプロジェクトの対象としてこなかった COVID-19 のような感染症も、新たな災害として付け加え、防災と SDGs をテーマとする国際協働学習を通して、連帯とグローバル化を反映した情報共有を大切にして、「安全安心な社会づくり」の実現をめざしていきたい。



写真3 防災世界子ども会議 ロードマップ